

# 平成25年度 学校自己評価システムシート

# ( 県立川越女子高等学校 )

目指す学校像	「学力の向上」と「人格の陶冶」を柱として組織的教育活動を展開し、進学実績の向上を図る。生徒が主体的に学ぶ「質の高い授業」の創造に全力で取り組む。
--------	--

重点目標	1 「質の高い授業」「組織的な進路指導」「SSH事業」等を継続的・体系的に実施することにより、生徒の学習意欲（進路意識）を喚起するとともに、自学自習力の定着に努め、学力の向上を図る。《学力の向上》 2 「品格のある、志の高い生徒」「自主・自律の精神に満ちた生徒」を育成するために、学校行事・生徒会活動・部活動及び体験活動等の充実を図る。《人格の陶冶》 3 学校自己評価システムを効果的に実施し、「目指す学校像」を実現するために教職員の学校経営参画意識を一層高めるとともに関係者との連携を更に深める。《開かれた学校づくり》
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	11名
	生徒	40名
	事務局(教職員)	9名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 1 月 3 0 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年次当初での学習習慣の確立及び全学年の自学自習力・学力向上の継続</li> <li>○進路情報の共有化や職員研修の充実による組織的・体系的な進路指導の推進</li> <li>○SSH事業の発展</li> <li>○新学習指導要領を見据えた授業の創造</li> <li>○大規模改修による教育環境の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自学自習力の向上</li> <li>・質の高い授業の創造</li> <li>・体系的な進路指導の充実</li> <li>・SSH事業の発展</li> <li>・本校のニーズに合わせた授業方法や教材等の改善・開発</li> <li>・大規模改修工事の円滑化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な学習OT及び学習・生活状況調査を実施し、結果の検証を踏まえ、生徒の個別指導にあたる。</li> <li>・管理職による授業参観、教員相互授業参観、外部の授業研究等により、質の高い授業を創造する。</li> <li>・志願校検討会等を実施し、生徒一人一人の進路希望の実現のため、組織的・体系的に対応する。</li> <li>・SSHを核に進路意識を啓発する。</li> <li>・国際交流活動を推進する。</li> <li>・ジバスの活用について検証する。</li> <li>・工事に向け関係分掌と調整する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒への個別指導の結果、家庭学習時間の不足する生徒が減少したか。</li> <li>・質の高い授業を創造したか。</li> <li>・志願校検討会等を実施し、組織的・体系的に対応したか。</li> <li>・SSH活動を核に進路意識が高まったか。</li> <li>・充実したオーストラリア(ケモハイスクール)交流が実施されたか。</li> <li>・ジバスを有効に活用できたか。</li> <li>・工事が円滑に行われたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケートで学習への取組(予習復習)の自己評価が全学年で上昇したが、保護者アンケートでは家庭学習について、7割程度の評価にとどまった。</li> <li>・質の高い授業を学校全体で取り組んだ。</li> <li>・志願校検討会議を2学年で1回、3学年で2回実施し、進路指導に活用した。</li> <li>・教科間連携・サインズ教室・出張講義等を計画通り実施し、進路意識が向上した。</li> <li>・SSH事業の一環でオーストラリア研修に15名が参加し、充実した交流を図った。</li> <li>・入校時OT等でジバスを有効活用した。</li> <li>・関係者の協力で工事が円滑に行われた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭との連携を図りながら、家庭学習時間の一層の確保を行う。</li> <li>・引き続き生徒が主体的に学ぶことが出来る質の高い授業創造に取り組む。</li> <li>・SSH活動を核にした進路指導や様々な教育活動を通じた進路指導を展開する。</li> <li>・進学実績をさらに向上させる。</li> <li>・ケモハイスクールの受け入れに向けて、計画を作成し、円滑に実施する。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校生活における生徒の「自主・自律の精神」及び「品格の向上」の継続的指導</li> <li>○学校行事・部活動・生徒会活動等で短時間かつ密度の濃い工夫ある活動の継続</li> <li>○生徒相談体制の強化及び今日的課題に関する啓発活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主・自律の精神に満ちた自立した人間の育成</li> <li>・顧問や担任との密な連絡体制の確立</li> <li>・関係者の連携による生徒指導体制の充実・啓発活動の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらゆる教育活動において、生徒の自主的な活動を促すとともに、品格を向上させる。</li> <li>・休日の有効活用及び下校時刻の徹底をさらに進める。</li> <li>・各種委員会等を活性化し、短時間かつ効率化を図る。</li> <li>・こまめに生徒面談を実施する。</li> <li>・管理職、学年主任、相談係の連携のもと、生徒相談関係連絡調整会議を組織的に実施する。また、支援体制をさらに充実させる。</li> <li>・ネットトラブル防止啓発講演会の開催及び保護者への啓発を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的かつ統一的な指導により、自主的な活動を支援したか。</li> <li>・下校時刻が守られたか。</li> <li>・短時間で活動に工夫が見られ、効率や成果があがったか。</li> <li>・面談等を通じ、積極的に生徒理解に努めたか。</li> <li>・連絡調整会議が定期的に有効に行われたか。</li> <li>・ネットトラブル防止の啓発が計画的に行われたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二本柱である「人格の陶冶」の観点から生徒の自主的活動を積極的に支援した。</li> <li>・19時下校を徹底し、保護者アンケートでは99%守られていると回答だった。</li> <li>・大規模改修工事による教育活動の制限等の影響があったが、効率的に諸活動が行われた。</li> <li>・面談週間等を有効に活用し、積極的に生徒理解活動に努めた。</li> <li>・教育相談は臨時を含め、計画通り実施し、生徒相談関係連絡調整会議を3回実施し、情報共有を進めた。</li> <li>・11月に情報モラル向上委員会を立ち上げ、次年度の指導計画を策定した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動全体の短時間効率化が課題であり、家庭学習の確保の観点からも下校時刻の徹底を図る。</li> <li>・人格の陶冶を継続的に進める。</li> <li>・引き続き19時完全下校の徹底を図る。</li> <li>・定例的教育相談や連絡調整会議の実施により教育相談体制は整備されたが、支援を必要とする生徒に対する対応の更なる充実を図る。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校評議員・懇話会委員・生徒・保護者の意見のフィードバックと担当組織の改善</li> <li>○生徒の学校生活向上・改善に向けたアンケートの実施</li> <li>○本校の教育活動全般に関する情報発信と広報活動の充実</li> <li>○小中学校との連携推進活動の重点化</li> <li>○家庭との更なる連携の強化及び情報提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校自己評価システムの適切な運用</li> <li>・学校評議員会や学校評価懇話会等からの提言の検討と効果的な活用</li> <li>・開かれた学校づくりの取組</li> <li>・小中学校との連携推進行事の効果的な実施</li> <li>・PTA等との協力による学校の教育力向上の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年、分掌、委員会、教科ごとに到達目標の設定と具体策の立案・実施・評価を行う。</li> <li>・授業評価アンケート及び保護者アンケートを実施する。</li> <li>・学校評議員会や学校評価懇話会等の提言について、各分掌教科会で活発な意見交換を行う。</li> <li>・授業公開や学校説明会を効果的に実施する。</li> <li>・学校案内の改訂及びホームページの逐次更新を行う。</li> <li>・中学への学習支援、小学校交流等の連携を密にする。</li> <li>・PTA各種委員会の活動を更に活性化させる。また、様々な方法により、家庭との連携を密に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各組織において到達目標の達成状況を的確に評価できたか。</li> <li>・生徒アンケート結果を反映して授業力が向上したか。</li> <li>・学校評議員会や学校評価懇話会の提言及び保護者アンケートを学校運営や教育活動の改善に効果的に活かしたか。</li> <li>・授業公開や説明会により、本校の教育活動を適切に周知できたか。</li> <li>・学校案内の改訂、学校説明会の効果的な実施、ホームページの逐次更新ができたか。</li> <li>・出前授業等で小・中学校との連携が十分に図られたか。</li> <li>・家庭への情報提供が的確にできたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末に各学年・分掌・教科等において評価を行い、全体でも共有する。</li> <li>・生徒アンケートを2回実施し、結果を授業や施設等の改善に反映させた。</li> <li>・学校評議員会を3回、学校評価懇話会を2回実施した。また、保護者アンケートの結果を全教職員及び学校評議員会等で情報共有した。</li> <li>・市町村教委主催説明会等、上級学校訪問受け入れ等を積極的に実施した(48回)。</li> <li>・ネットモンスターの導入により、部顧問等がマルチにHP更新した。</li> <li>・1小学校、2中学校との交流及び4高校合同の冬休み科学教室(800名参加)を実施した。</li> <li>・家庭への情報提供の保護者評価は昨年同様99%の満足度であった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や家庭との更なる連携強化に向けて、保護者アンケート結果を教育活動に有効活用させていくことを研究する。</li> <li>・小中学校との連携を更に強めるとともに、連携の効果的な在り方や内容の精選について検討をする。</li> </ul>

学校関係者評価	実施日 平成26年2月15日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体で質の高い授業を目指して取り組んでいることは素晴らしい。今後も授業力の向上を一層図って欲しい。</li> <li>・生徒の家庭学習の取組について、保護者は十分とは捉えていないことを踏まえ、生徒が主体的に学び、考え、行動する姿勢の強化を期待したい。</li> <li>・これから自分がどのように生きていくのか、自分の生き方をどのように豊かにしていくのかを考える時間を確保していくことは極めて重要である。</li> </ul>
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自主自律の精神」及び「人格の陶冶」を図ることは、大変重要である。今後とも学校行事・部活動・生徒会活動等での充実を図って欲しい。</li> <li>・少子高齢化が急速に進み、益々女性の役割が必要である。次世代のリーダーとなる人材の育成を期待したい。</li> <li>・ネットトラブル等、生徒の実態に合った問題について積極的に取り組んでいる点は高く評価したい。</li> <li>・生徒の主体的な取組は、社会で活躍する人間としての形成に大きくつながっていると評価する。</li> </ul>
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校との連携推進活動は、将来教職志望等の生徒にとって、貴重な体験である。今後も、継続発展させるよう工夫改善を図って欲しい。</li> <li>・社会はグローバル化が進んでおり、世界で活躍出来る人材の育成が課題である。また、地域と連携を強化した教育環境整備を期待したい。</li> <li>・多忙な校務の中で、実質的な評価システムを構築し、生徒・保護者とともに取り組んでいることそのものが、学校を活性化し、生徒の学習基盤を整える取組になっていると評価する。</li> </ul>